皮膚病理診断リファレンス

安齋眞一(著)

東女医大東医療センター皮膚科部長
田中　勝

1人の師匠に出会えたに匹敵する学びの多い一冊

◆すごい本だということ！

第1に著者がすごいし，執筆協力者もすごい．この本は分担執筆ではなく，1人の皮膚病理専門家(大家の中の大家！)が執筆した単著である．もちろん，著者がすごいのは，経験を積んだ多くの皮膚科医・病理医には説明不要なのだが，若い先生方，特に後期研修医や医局で毎週のようにカンファレンスを通して研鑽を積む立場にある先生方には少し説明が必要かもしれない．これから皮膚科専門医試験を受ける後期研修医は，皮膚病理を苦手とする人が多いと予想されるが，この本さえしっかりと読み込んでおけば，試験問題もやさしく感じられるに違いない．そして，医局の中心となり学会発表の指導をする立場の先生方にとっても本書は間違いなくバイブルと言える皮膚病理教書である．

さらにすごいことに，著者を支える執筆協力者の2人も，皮膚病理という領域の中では，大家と呼べる2人なのだ．すなわち，「皮膚病理診断」を専門とし，毎日のように標本を見て診断することを職業とする，つまり皮膚病理で開業している数少ない日本人なのだ．したがって，自分の専門領域以外はわからないということはなく，ほとんど全ての領域にわたって詳しいのである．

◆どこから読んでもわかりやすい

この本の最大の魅力はそのまとめ方にあると思う．多くの皮膚病理教書は，特に洋書は文章が長くてポイントがわかりにくい．本書は所見が箇条書きになっており，ポイントがひと目でわかる．そして「病理診断の決め手」が短くズバリと書かれていることも特記すべきである！　さらに，「病期による違い」「臨床像との関係」「類縁疾患・鑑別疾患との違い」が簡潔にまとめられており，迷ったときに，鑑別点が何かをストレートに検討すればよいので，実際の診断においてとても助かるのである．

◆全ての皮膚科医・病理医必携の書

本書には著者の長年の経験が惜しげもなく織り込まれている．「言いたいことは全て書いた」という達成感に溢れている．だからこそ，本書から学ぶことは，1人の師匠に出会えたに匹敵するものであり，継続して読み続けることの恩恵は計り知れない．ぜひとも読み倒していただきたい本であり，著者の渾身の思いを少しずつでもよいので，汲み取ってほしい．

◆重いけど，学会にも携帯する価値がある！

本書は毎日持ち運ぶには重いかもしれない．でも，毎週のカンファレンス前日はもちろん，カンファレンス当日にも持ち込んで読みながら議論をしてほしいと願う．さらに欲を言えば，毎月の学会(地方会や支部総会など)にも持ち込んで調べながら聞き，できるだけ広範囲の項目を継続的に読み進めてほしい．



●A4/頁 530/2020 年
定価：本体 18,000 円＋税
[ISBN978-4-260-04140-9]
医学書院 刊

©IGAKU-SHOIN Ltd. 2021

2026/11/11 09:08:59